

イギリスの欧州連合（EU）離脱と6月24日（金）、27日（月）、28日（火）の基準価額の動向について

6月23日（木）にイギリスで欧州連合（EU）からの離脱の賛否を問う国民投票が実施され、直前まで残留支持が優勢と見られていたものの、結果としては、離脱支持が賛成多数となり、イギリスの欧州連合（EU）離脱が決定的な状況となりました。直前まで残留支持が優勢と見られていたことで、6月の中盤以降、世界の株式市場は上昇基調となったほか、為替市場でも円安基調となっていました。予想外の結果を受けて市場は慌ただしい動きとなり、株式市場が大きく反落に転じると共に、為替市場で大幅な円高が進行しました。

国民投票の開票が取引時間中と重なったこともあり、国内の株式市場の下落が大きなものであったことから、今回の動きをリーマンショックと関連付けるような報道も一部に見られますが、今回の一連の動きは、イギリスや欧州連合（EU）の経済成長が下押しされ、その影響が世界経済に広がる懸念が高まったことにより発生した、金融危機とは全く性質の異なるものです。また、イギリスと欧州連合（EU）の関係は、今回の国民投票の結果を受けて新たな局面に入りますが、イギリスと他の欧州連合（EU）加盟国は経済的にも関係が深く、どちらにとっても重要な関係であることに変わりないことから、今後は交渉を通じて経済への影響を軽減するための何らかの合意が行なわれる可能性もあり、悲観的なシナリオだけに目を奪われると、状況を見誤る可能性があります。

今回の結果を受けて、世界経済の先行きに対する不透明感が高まったことは事実ですが、私どもとしては、リスク回避志向が強まった、このような状況においてこそ、価値があると考えられるものに長期的な視点で分散投資を継続することが重要であると考えております。

当社が運用する各ファンドの直近の基準価額の動向と投資方針は下記の通りとなっておりますので、引き続き、長期的な視点で投資のご判断を行って頂きますようお願い申し上げます。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンドの基準価額の変動要因と今後の投資方針

24日（金）から28日（火）までの基準価額の推移と主な変動要因は下記の通りです。当ファンドでは、幅広い分散投資を基本として、定められた投資比率に従い、必要に応じて比率の上昇した資産を売却し、低下した資産の購入を行うことによりリバランスを行って参ります。

基準価額の推移と主な変動要因【24日（金）～28日（火）までの3営業日合計で589円の下落（約-4.9%）】

- ・24日（金）：11,565円（前日比：-482円/約-4.0%）▶変動要因：24日（金）の円高
- ・27日（月）：11,756円（前日比：+191円/約+1.7%）▶変動要因：27日（月）の円安、23日（木）の株式上昇
- ・28日（火）：11,458円（前日比：-298円/約-2.5%）▶変動要因：24日（金）の株式下落

セゾン資産形成の達人ファンドの基準価額の変動要因と今後の投資方針

24日（金）から28日（火）までの基準価額の推移と主な変動要因は下記の通りです。当ファンドでは、長期的な視点で投資対象の価値を重視して株式投資を継続することが長期的な資産形成に資するものと考えておりますので、投資先ファンドを通じて株式への投資を継続して参ります。

基準価額の推移と主な変動要因【24日（金）～28日（火）までの3営業日合計で819円の下落（約-5.7%）】

- ・24日（金）：14,314円（前日比：-160円/約-1.1%）▶変動要因：24日（金）の対ドルでの円高
- ・27日（月）：13,982円（前日比：-332円/約-2.3%）▶変動要因：24日（金）の円高と日米の株式下落
- ・28日（火）：13,655円（前日比：-327円/約-2.3%）▶変動要因：24日（金）の米欧や新興国などの株式下落

2016年6月28日
セゾン投信株式会社
運用部長 瀬下 哲雄